

## 令和7年度 山梨県立大学教職員表彰 対象者

山梨県立大学では、平成22年度に「学長表彰」の制度を設け、教育・研究や社会貢献等で特色ある顕著な業績を挙げ、大学の発展に貢献した本学教職員に対し、毎年表彰を行っております。

具体的には、次のような活動で顕著な功績があった方々を表彰の対象としています。

1. 職務上特に顕著な功績があった者
2. 法人の名誉を高める行為を行った者
3. その他特に他の教職員の模範として推奨すべき功績があった者

令和7年度は、以下の8名を表彰いたしました。

【優秀教職員賞(敬称略)】8名(教員6名・職員2名)

- 国際政策学部 総合政策学科 准教授 プラット ジェイソン

ネイティブスピーカーの英語教員として多数の授業科目を担当するとともに、学部の英語WGのリーダーとして英語教育運営においても重要な役割を担っている。また、大使館広報官として活動した経験を活かし、アフガニスタンへの人道的支援に関する活動を通じて地域貢献活動にも積極的に関わっており、新聞をはじめとする各種媒体で紹介される機会も多かった。

- 国際政策学部 国際コミュニケーション学科 准教授 賀南

ネイティブスピーカーの中国語教員として多数の授業科目を担当し、中国奨学金による中国大学への留学や中国語コンテストに関する各種大会での受賞など高い中国語を身につけた学生を輩出している。また、ゼミ生や交換留学生などを中心にする学生企画による富士河口湖町観光PR事業の企画・実施を継続的に行っており、その間、SNSによる情報発信(動画16本、ショート7本)している。さらに、関連学会の誘致を通じて多くの関係者が本学を訪れ、山梨の魅力に触れる機会を創出し、地域貢献に大きく寄与した。

- 人間福祉学部 人間形成学科 准教授 鳥居 美佳子

教育では、栄養学関連の科目を担当し、食育や食生活をはじめ、現代の栄養食の在り方についての教育実践や多様性をテーマに地域と連携した活動を継続して行っている。研究では、食を通じた地域や子育て支援を展開しており、本学地域研究交流センターの重点テーマ研究や地域実践事業の助成を受け積極的に研究している。また、山梨県立甲府南高等学校学校運営委員会委員や大村智自然科学賞選考委員会委員等の社会貢献を行い、地域に尽力している。さらに、学内業務では学部入試委員長、大学院入試委員、

キャリアサポート運営委員を担当。特にキャリアサポートに関連しては保育士・保育所支援センターとの協働で実習やその先の就職へのつながりを意識した展開を実践するなど、工夫を行い、今後も期待できる教員である。

● 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 准教授 橋爪 大輝

教育では哲学領域での講義科目（本学全学科における哲学に関連する科目）を担当。丁寧で質の高い講義に対し学生の評価は高い。研究においては、現在、「アーレントを問い直す：新資料・研究動向に基づく国際的・領域横断的研究基盤の確立」と題し、科学研究 基盤 B を取得（2025 年 4 月～2030 年）し、一橋大学哲学・社会思想セミナー等においてもアーレントに関する発表及び講演活動を展開している。アーレント研究を一貫して展開し、その第一人者となりつつある。主要な社会貢献活動としては、「やまなし哲学・思想ネットワーク」として、甲府にある高校の生徒と哲学を思考する場を設ける等、学内外において哲学にふれる機会を設けている。また学内業務では、人間福祉学研究科の研究倫理審査委員長として、看護学部の外部倫理審査委員として丁寧な倫理審査を実施に尽力している。

● 看護学部 看護学科/大学院 看護学研究科/助産学専攻科 教授 平田 良江

母性看護学分野の教授として、高いリーダーシップを発揮し、教育・研究の推進に大きく貢献している。また、実習委員長として臨地と看護学部の協働による学生の実践力強化に向けて、FD/SD の企画・運営や実習地との連絡会開催など、積極的に取り組んでいる。とりわけ、今年度新設された助産学専攻科においては、立ち上げの段階から中心的に関わり、教育体制の整備と安定的な運営に尽力してきた。その結果、今年度は 7 名の学生を確保し、修了生 7 名全員が国家試験に合格するという優れた成果につながった。これらの実績は、平田氏の実行力の表れであり、本学の教育の発展に寄与するものとして評価できる。

● 看護学部 看護学科 准教授 山北 満哉

看護関連科学分野の准教授として、大学院では「看護統計学」、学部では「生活健康科学」「疫学」「保健福祉行政学」他、看護の基盤となる主要科目を担当しており、綿密な講義設計の元に展開される講義は、「難しいことをわかりやすい資料で丁寧に教えてくれるので理解できる」と好評を得ている。学内業務では、アドミッションズ・センター運営委員として、オープンキャンパスの企画・運営や高校訪問等の広報活動を看護学部の代表として、誠実かつ積極的に取り組んでいる。さらに研究面では「Public Health」他、当該分野で高い評価を受けている国際誌に First Author として論文が掲載された。教育・学内運営・社会貢献等に精力的に携わる一方で、真摯に研究に取り組む姿勢は、他の教職員の模範となっており、高く評価できる。

● 教務連携課 副主査 坂本 一真

普段から大学全体を俯瞰し、課題や意見などがあれば、広く情報を集め、緻密な状況分析による解決や提案を心がけるとともに、躊躇なく上司に報告や意見を行うなど、プロパー職員として大学運営をリードしていく存在であるとの強い意識と責任感を持っている。また、学内外問わず、積極的にコミュニケーションを図っており、本学の理念、目的である地域振興に大きな役割を果たしている。更に、部下に対しても親切丁寧に接しており、根拠を示した指導は、職員から厚い信頼を受けており、所属の中心的存在となっている。令和7年度、新たに再編された教務連携課のリーダーとして、その職責を超えて活躍した。

● 池田事務室 主任 河野 成彰

令和7年1月に本学に入職した後、前職の金融機関では経験したことのない契約事務や入試業務など、幅広い業務内容や手順等をわずか数週間で把握するとともに、効率的に仕事を進め、停滞気味だった業務の進行を劇的に改善するなど、高い能力とスキルをいかんなく発揮している。また、職場マネジメントに優れ、卓越したコミュニケーション力により、職場に一体感をもたらし、働きやすい職場を実現した。さらに、大局的な視点、高度な分析力、実行力も備えており、今後の大学運営の中心となっていくことは確実である。